

第1章 基本方針

1. 策定にあたっての基本方針

(1) 目的

すべての町民の幸福で健全な成長と生涯にわたり楽しく学習できることを願うとともに、身近に本と親しめるきっかけづくりや、家庭・学校・福祉施設・地域住民等が^(注)読書活動に対するより一層の協力体制を構築し、町民が成長とともに生活の中に読書の習慣を取り入れ、生涯にわたって読書に親しめる環境を整備するため、次の基本方針に基づき「東川町読書活動推進計画」を策定します。

(2) 基本方針

1. 本計画は^(注)子どもに限定せず、乳幼児期から高齢期までのすべての町民を対象に読書活動を推進するものです。子どもに限らず、読書離れが深刻な大人の状況も改善することで、子どもの読書環境の整備や読書習慣の形成にも影響を与えることが期待されます。
2. 図書館は情報提供の場であり、みんなが自由に利用できる場です。多くの人に利用してもらえる図書館・図書スペースを目指します。
3. この計画により、町民の生涯学習が推進され、文化・教養の向上に寄与することを目指します。図書館機能を有する複合交流施設「せんとびゅあⅡ ほんの森」や学校図書館の多様な利用機会を創出します。
4. 本計画は、読書に関わる個人やボランティア団体などが連携して、幅広い年齢層にわたり町民の自主的な読書活動が推進されるよう必要な施策を講じ、読書環境の整備を行うものです。また、あらゆる機会とあらゆる場所において、本と親しみ、本を楽しむことができる環境づくりのため、ほんの森、学校図書館など、読書に関わる施設及び資料の充実、人材の確保と養成を行います。
5. スマートフォンやゲームなどのメディア機器への過剰な依存や実体験の不足など、子どもを取り巻く現状を改善するため読書活動の推進を図ります。
6. 施策の策定にあたっては、本計画に関わる個人やボランティア団体等の自主性を尊重しつつ、^(注)「東川町プライムタウンづくり総合計画21-Ⅲ（2019～2023年度）」との整合性を図り、財政状況等を踏まえながら、関係法令、関係基準を満たす内容とします。

(3) 計画期間

本計画の実施期間は、令和2年度（2020年度）から令和6年度（2024年度）までの5年間とし、その間、必要に応じて改訂を行うものとします。

2. 計画の体系

<基本目標1> ライフステージに応じた読書活動の推進

- 【1】乳幼児期の読書活動の推進
- 【2】小学生期・中学生期の読書活動の推進
- 【3】高校生期の読書活動の推進
- 【4】特別な支援を必要とする人の読書活動の推進
- 【5】成人期・高齢期の読書活動の推進

<基本目標2> 読書環境の整備・充実

- 【6】せんとびゅあⅡほんの森の充実
- 【7】学校図書館の整備・充実

<基本目標3> 読書活動推進体制の整備及び啓発広報

- 【8】東川町における読書活動推進体制の整備
- 【9】「子ども読書の日」及び「読書週間」を中心とした啓発広報

第2章 読書活動の推進のための方策

<基本目標1> ライフステージに応じた読書活動の推進

おおむね中学生期までに十分な読書の習慣を身につけ、生涯にわたって読書に親しめるよう、乳幼児、児童・生徒、成人・高齢者一人ひとりの発達や読書経験に留意しながら、

(※) 図書館及び家庭・学校・地域住民等が連携して、切れ目のない支援に取り組んでいきます。
⇒東川町では図書館機能を有する「せんとびゅあⅡほんの森」のことを意味します。

【1】乳幼児期の読書活動の推進（おおむね6歳まで）

乳幼児期には、周りの大人から話しかけてもらったり、乳幼児なりの発話を聞いてもらったりしながら言葉を次第に獲得するとともに、絵本や物語を読んでもらうこと等を通して本に興味を示すようになります。読み聞かせを通して未知の世界に興味を持ったり、さまざまな体験を通じてイメージや言葉を豊かにしながら、本を楽しんだりするようになります。

この時期は、本に親しむことの重要性を保護者に伝えたり、幼児センターや子育て支援施設など、保護者や乳幼児の身近な場所で本の楽しさに触れたりする機会を作り、身近な場所に本がある環境づくりと読み聞かせの推進に取り組みます。

【2】小学生期・中学生期の読書活動の推進（おおむね7歳から15歳まで）

小学生期の子どもは、生涯にわたる読書習慣を身に付けていくために、幅広く読書を楽しみながら内容や要旨をとらえるなど、基本的な読む能力を身につけるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を身につけていくことが望まれます。

そのためには、子どもが「本を読んで面白かった」「本が役に立った」という経験ができ

るよう、学校や家庭を中心に一緒に読書する時間を確保し、子どもが興味や目的に合った魅力的な本と出合えるような読書環境づくりや、幅広い分野の本を紹介していく取り組みを進める必要があります。

中学生期については、日常生活における読書活動を「目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりすること」につなげ、継続的な読書を促すようにすることが求められます。学習活動の中で、必要な情報の集め方や情報を読み取るための読み方、その情報の活用の仕方について理解させると同時に、目的や興味に応じた魅力的な本に出会うための環境づくりを行うことが求められます。

中学生期は、興味や関心、活動範囲が広がることにより、読書から遠ざかりやすい時期ですが、自己の価値観の確立や、自己の在り方や生き方について思考を深めていくために重要な読書への関心が途切れないように働きかけていく必要があります。

【3】高校生期の読書活動の推進（おおむね15歳から18歳まで）

高校生期には、文章表現の特色に注意して読んだり、内容を的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること、人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと、書き手の意図をとらえたりすることが求められます。

ほんの森での調べ学習をはじめとした、情報を適切に用いて思考し、表現する能力を高めるための資料を整備し、読書意欲を喚起し、幅広く読書する態度を育むための^(注)ブックトークや^(注)ビブリオバトル（書評合戦）等のイベントを導入します。また、本に親しむ機会となるインターンシップやボランティアを積極的に受け入れていきます。

【4】特別な支援を必要とする人の読書活動の推進

障がいのある人、発達に課題のある子ども、日本語を母語としない人等、さまざまな身体的・社会的な理由で支援を必要とする人は、読書に親しむ機会が少なくなりがちです。一人ひとりのニーズや興味・関心に合った読書活動を支援していくことが必要です。

ほんの森や学校における特別支援学級では、障がいの状態に応じた選書や施設・設備等の整備、読書ボランティアの支援等による本と出会う機会づくりを行うことが必要です。

また、日本語を母語としない人のために、多言語の図書を充実させることも必要です。

【5】成人期・高齢期の読書活動の推進（18歳以上）

成人期・高齢期における読書は、「いつでも、どこでも、だれでも、なんでも」学ぶことができる生涯学習の実現に有効な手段と言えます。また、大人が読書の魅力を知り、読書の意義や重要性を理解し、関心を深め、自らも読書を楽しむ姿を子どもたちに見せることで、子どもの読書活動にもつながります。

成人期は仕事や勉強で忙しく、また高齢期には視力の低下等健康上の理由で、なかなか本を読む機会が少ない人が多いのが現状です。このステージは、イベント等をきっかけに、ほんの森を利用してもらえるような創意工夫が必要です。

＜基本目標 2＞ 読書環境の整備・充実

せんとぴゅあⅡ ほんの森と学校図書館の施設・設備を整備するほか、他市町村図書館、北海道立図書館との連携を密にし、乳幼児期から高齢期までの自発的な読書活動を支援していきます。また、読書活動の推進を支える、ほんの森職員、教職員、学校司書、ボランティア等の研修を行い、人材育成を行います。

【6】せんとぴゅあⅡ ほんの森の充実

「せんとぴゅあⅡ」は、図書スペース「ほんの森」を中心に、「写真文化」「大雪山文化」「家具デザイン文化」も楽しめる複合交流施設です。2018年7月にオープンして以来、町内外から多くの人々が訪れています。

ほんの森は、魅力ある本と出会うことができる場所であり、興味のあることから自分で学ぶことができる場所です。子連れ家族にも利用しやすい設備が整っており、乳幼児から高齢者まですべての町民にとって、居心地の良い大切な居場所となっています。町内全域から多くの人に来館してもらうよう、交通手段のない方などへの対応も検討する必要があります。

一方で、ほんの森には、子どもたちに自由な学習の場を提供するとともに、学校図書館を資料面で支援する役割が求められます。引き続き子どもの発達やニーズに応じた選書と、多くの本に親しみ自らの興味と関心で選ぶことができる魅力的な蔵書の充実が求められるとともに、司書は、人と本とをつなぐ要（かなめ）であることから^(注) 図書館サービスに関する知識と技能のさらなる向上が望まれます。

【7】学校図書館の整備・充実

子どもと本との出会いをより豊かにし、生涯にわたる読書習慣の形成を図るためには、子どもが日常の多くの時間を過ごす学校で、より一層本の楽しさとお出合える機会を増やしていくことが求められます。

学校図書館は、①児童・生徒の自由な読書を通して想像力を培い、学習に対する興味・関心等呼び起こし、豊かな心を育む「読書センター」としての機能、②児童・生徒の自発的・自主的な学習活動を支援し、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」としての機能、③児童・生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成する「情報センター」としての機能を有します。

また、児童・生徒が自ら考えて判断し、行動できる資質や能力等を育むための^(注) アクティブ・ラーニングを効果的に進める基盤としての役割も期待されます。

今後、学校図書館の運営について教職員の連携の下、計画的・組織的に運営がなされるよう検討します。

＜基本目標3＞ 読書活動推進体制の整備及び啓発広報

読書活動の意義や重要性についての町民の理解や関心を深めるために、積極的な啓発広報活動を行っていきます。また、全町的な取り組みの中で、学校、子育て支援関係団体、民間団体、読書ボランティア等、読書活動に関わる人が、互いの立場や果たすべき役割について理解を深め、連携・協働体制を整備します。

【8】東川町における読書活動推進体制の整備

東川町内で活動している読書活動ボランティア、読書活動グループなどの個人、団体が相互に連携・協力することにより、それぞれの団体の活動に広がりを与えるとともに、相互の強みを生かしながら、子どもをはじめとした町民の読書活動を推進する大きな力を生み出すことが期待されます。

それらの個人や民間団体等の把握に努め、読書ネットワークの構築を支援することが課題となります。

また、本計画の事業実施にあたっては、町民や関係団体等の意見を踏まえながら、単年度ごとに各事業の実施状況を確認し、調整しながら進めることとします。

【9】「子ども読書の日」及び「読書週間」を中心とした啓発広報

4月23日「子ども読書の日」は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」において、読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるために定められ、地方公共団体はその趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならないとされています。

また、11月3日（文化の日）を挟んだ2週間の「読書週間」期間中に、本に親しむきっかけを作るために講演会やイベント、本に関する展示会などを開催します。

「広報ひがしかわ」や防災行政無線放送、多機能情報端末、図書館報、ホームページなどの各種媒体を通じて読書関連の行事や事業紹介などの情報発信のほか、^(注) SNS等のソーシャルメディアを活用し、個々のニーズや価値観に応じたきめ細かい情報提供を行っていきます。



－ ライフステージに応じた読書推進の取り組み －

☆検討事業（新規） ・ 実施事業（継続）

0歳 誕生

●人格形成の基礎となる時

ふれあいとぬくもりの中で本と出会い、人との関わりの中で豊かな言葉の世界へ踏み出します。

(注)

- ブックスタート事業 ※ほんの森、保健福祉課、子育て支援センター
- 日常的な読み聞かせと本に親しむイベント ※各幼児施設
- 幼児施設の絵本コーナーの充実 ※各幼児施設
- 本に親しむイベント（図書まつり等） ※ほんの森、ボランティア
- 親と子の朗読会 ※文化レクリエーション課
- 読書活動の啓発と支援 ※各幼児施設
- 子育て支援事業における読書活動の啓発と支援 ※各幼児施設
- 親子や子育てサークルへの支援 ※各幼児施設
- 保護者への図書館利用の案内・周知 ※ほんの森

7歳 小学校入学

●生涯にわたる学習の基礎を身に付ける時

発見・感動、心を豊かにするたくさんの本が待っています。

(注)

- マイブック・マイトーク事業 ※文化レクリエーション課、学校教育課
- 読書活動の推進（朝読書、読書週間等）と読書推進企画 ※各小学校
- 計画的な学校図書館の利用 ※各小学校
- 学級文庫、学校図書館資料の充実 ※ほんの森、各小学校
- ボランティアによる読み聞かせ ※各小学校
- 本に親しむイベント（図書まつり等） ※ほんの森、ボランティア
- 親と子の朗読会 ※文化交流課
- 読書活動の啓発と支援 ※ほんの森、各小学校、学校教育課
- ☆ 学校図書館の地域開放の検討 ※学校教育課
- ☆ 放課後の読書活動支援 ※ほんの森、学童保育センター
- ☆ 安心して読書に親しみ楽しむことができる環境整備 ※ほんの森、学校教育課

13歳 中学校入学

●社会人として自立して生きるための知識と技術の基礎を学ぶ時

人を知る、歴史を学ぶ、本は過去から未来まで自由に行けるタイムマシンです。

- 読書活動の推進（朝読書、読書週間等）と読書推進企画 ※中学校
- 計画的な学校図書館の利用 ※中学校
- 学校図書館資料の充実 ※ほんの森、中学校
- 職場体験（図書館の仕事を経験する） ※ほんの森、中学校
- 中学生向け図書の充実 ※ほんの森
- 読書活動の啓発と支援 ※ほんの森、中学校、学校教育課
- ☆ 本に親しむイベント ※ほんの森、ボランティア

15歳 義務教育終了後

●専門的な技術や知識を身に付け自立への準備を整える時

子どもから大人へ、悩みや不安、解決への糸口、希望への扉が本の中にもきっとあります。

- 読書活動の推進（朝読書、読書週間等）と読書推進企画 ※高校
- 学校図書館の利用 ※高校
- インターンシップ、ボランティア活動 ※ほんの森、高校
- 高校生向け図書の充実 ※ほんの森
- 読書活動の啓発と支援 ※ほんの森、高校
- ☆ 学校図書館の充実 ※ほんの森、高校
- ☆ 本に親しむイベント ※ほんの森、ボランティア

18歳

●学ぶことの意味と方法を身につけて、新しいスタートラインに立つ時

読書の楽しさを知っている。そのことをどうか忘れないでください。

- ☆ せんとぴゅあⅡほんの森の充実 ※ほんの森、ボランティア
- ☆ 本に親しむイベント ※ほんの森、ボランティア

子どもだった東川の大人たちへ・・・

小さい時に大好きだったあの絵本を覚えていますか？大人になっても本は頼りになる友達の一人です。これからの長い人生をあなたらしく幸せに生きるためにも、きっと役立つはずです。そして、ちょっと心が疲れたら、図書館で好きだったあの絵本を開いてみるのもいいですね。